



Histoire et Dialectique

歴史と弁証法 (Pensees Sauvages 第9章
の省察)

サルトル弁証法への批判

サルトル弁証法への批判

弁証法
dialectique

- 1 ヘーゲル 思弁的
- 2 マルクス 唯物弁証法
- 3 レーニン毛沢東 弁証法の実践 (暴力革命)
- 4 カント 分析思考の補完

サルトル弁証法

- 1 実存主義から出発、分析思考で事象を理解する (ヘーゲルの)。
- 2 歴史はモノ (マルクス)、神の思考。内省・発露・統合の自律運動を「分析」しても意味はない。
- 3 社会事象 (ストライキなど) に積極参加 (praxis、engagementの焼き直し)。暴力革命を肯定 (の疑い)
- 4 未来に起こる (はず) 歴史特異点 (共産調和) から今を批判する。先住民は「生まれ損ない」

レヴィストロースからの批判

- 1 弁証法はヒトの思考。分析思考の補完。
- 2 歴史は思想。特異点など無い。

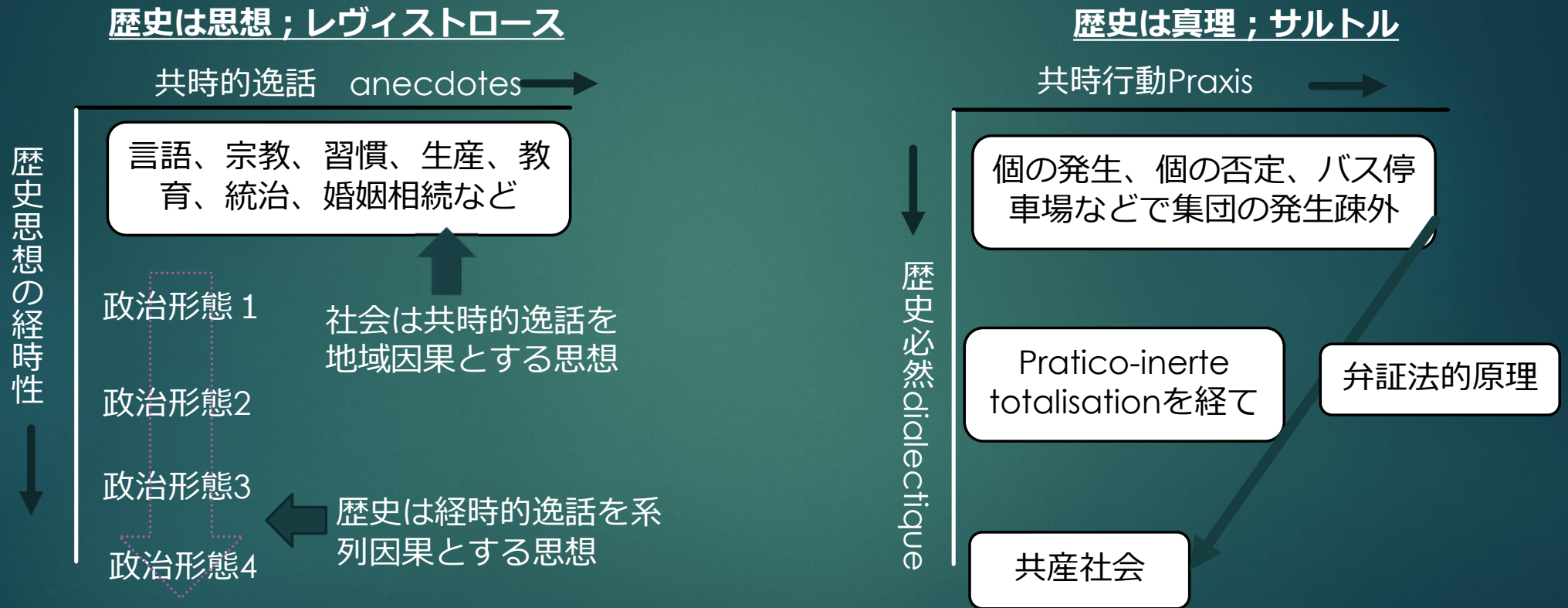
Histoire et Dialectique 歴史と弁証法 2 (Pensees Sauvages 第9章の省察)

基準点を失うな : SANS PERDRE DE VUE

	基準点 (原点)	サルトル	レヴィストロース
1	理性論	弁証法理性 : 内省 (interioriser) 発露 (exterioriser) 統括 (totaliser) を繰り返す。これは、実存主義が外界存在を経験し自由を獲得する (思考を形成する) と同期している。人の思弁作業、分析思考である。 (ヘーゲルの亡霊)	理性は経験を経ずに得られる。先験(transcendantal)
2	歴史観	唯物弁証法 (マルクス思想) + 人の積極介入 (レーニン毛沢東の暴力革命主義) 歴史弁証法に裏打ちされている連続性 (serialite) を個は確信し、行動に出る(praxis) (マルクスを超えたレーニン毛沢東主義)	歴史は歴史家の創造の賜物 歴史を構成する各事象は本来的に突発性 (anecdotique)、地域限定性(geographique)である。歴史家がそれらを自身の思想の中で解釈編集し、因果の流れとして組み上げる。
3	未開文化考	弁証法の摂理で歴史が動く。しかしその歴史は「短周期、繰り返し」で運動している。よって彼らの思考も弁証法も「出来損ないの不具」。 (西洋文明論につながる)	先住民は西欧 (文明) 人に劣らない思考体系を持つ。それを具体科学 (science du concret)とした。近代科学は実質を属性分解する思考、具体科学は実質をそのまま具体的なモノとする思考。

社会と歴史、思想か真理か *Pensees Sauvages* 第9章の省察 3

地域因果と系列因果の図式



Histoire et Dialectique 歴史と弁証法

Pensees Sauvages 第9章の省察 4

知の源泉、弁証法対分析理性のまとめ (本書292~295頁) (過去作成スライド)

	項目	レヴィストロース	サルトル
1	知の源泉	Transcendantal 先験 Schematisme 図式論 (以上カント) * 先験は経験をふまえずに知を得る人の能力、図式は 覚知 (sensibilite) と悟性 (entendement) をつなぎ認識にいたる仕掛け。	Existentialisme 実存主義 * 人は存在を経験し自由を獲得する (思考を形成する)。
2	弁証法 対 分析理性	分析理性は先験の賜物。弁証法は構成する 思考 (constituante)。時に思索の橋渡 し (passerelle) を担う。* 両者を分ける根拠は 「知との分離の時間的差異」。analytiqueは知と近接 し dialectiqueはより遠い (293頁)	1 弁証法は真理、分析理性は怠惰思考 2 分析は弁証法を補完する思考 * サルトルは1-2のいずれを取るか躊躇している。分析を一方 で否定し、もう一方、弁証法の仕組みを説明するに分析方法 をとっている。
3	理論の展開	科学的思考は複雑系を単純化するのではない。複雑を理解可能な状況に還元する。 * 単純化は dialectique の手法。分析理性は「還元」 する。人と社会を還元する手法として (構造主義によ る) 人類学あげる。	弁証法過程で歴史は必然に向かう。* 共産革命。人 は歴史必然に参加する義務を負う (engagement)

神の歴史と弁証法特異点の比較

項目	神の弁証法 (耶蘇教)	弁証法特異点	備考
基本思想	教条 絶対神 天地創造 予定調和	唯物史観 弁証法は絶対の論理	
倫理	信仰 善行	Praxis Totalisation	
目的	神の王国で安住	共産主義 平等社会	「救い」とは集団としての救い
終点	予定調和	歴史必然	両者ともに超自然の力が歴史を動かす
歴史観	未来を見て今を糺す	同左	
行動規範	異教徒への攻撃 (十字軍、コンキスタ、布教)	蒙昧者への啓蒙 (攻撃) (現象論やら構造主義者など歴史必然に気付いていない者等へ警鐘)	レーニン毛沢東主義においては革命は必然、反対者には攻撃
その他	人は考えてはならない、全ての疑問には神の答が用意される	教条に反する異見の弾圧 (ルイセンコ説の否定者、ソルジェニツイン)	部族民通信2021年4月30日5/5